



## トランスコーダの設定

---

トランスコーダを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「トランスコーダの設定値」( P.76-1 )
- 「トランスコーダの検索」( P.76-3 )
- 「トランスコーダの設定」( P.76-4 )
- 「トランスコーダのリセット」( P.76-5 )
- 「トランスコーダの同期化」( P.76-5 )
- 「トランスコーダの削除」( P.76-6 )

## トランスコーダの設定値

Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) は、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内のトランスコーダのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco Unified Communications Manager は、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) とトランスコーダの両方の登録、および 1 つのコール内で MTP とトランスコーダの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco Unified Communications Manager は、エンドポイント デバイスのためにトランスコーダを起動します。トランスコーダは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータ ストリームを変換します。

トランスコーダ制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコーダ デバイスごとに作成されます。各トランスコーダは、初期化されるときに MRM に登録されます。MRM はトランスコーダ リソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

表 76-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

表 76-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
[トランスコーダタイプ (Transcoder Type)]	適切なトランスコーダ タイプを選択します。[Cisco Media Termination Point Hardware]、[Cisco IOS Media Termination Point]、[Cisco IOS Enhanced Media Termination Point]、または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のいずれかを選択してください。  これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「トランスコーダ」を参照してください。
[説明 (Description)]	説明 (最大 128 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
[デバイス名 (Device Name)]	このフィールドは、[Cisco IOS Media Termination Point] または [Cisco IOS Enhanced Media Termination Point] をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイの Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。  最大 15 文字を入力します。有効な文字は、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9) と、ドット (.)、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) です。
[トランスコーダ名 (Transcoder Name)]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
[MAC アドレス (MAC Address)]	[Cisco Media Termination Point Hardware] または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
[サブユニット (Subunit)]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、共通デバイス設定を選択します。選択した共通デバイス設定の詳細を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
[特別なロード情報 (Special Load Information)]	[特別なロード情報 (Special Load Information)] フィールドに特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット (ピリオド) およびアンダースコアを指定できます。
[信頼できるリレーポイント (Trusted Relay Point)]	ネットワーク パーチャライゼーション環境において Cisco Unified Communications Manager で使用可能な Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) として、このトランスコーダを指定するには、このチェックボックスをオンにします。  信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」とそのサブトピックを参照してください。

表 76-1 トランスコーダの設定値 (続き)

フィールド	説明
[最大容量 (Maximum Capacity)]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。
<b>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]</b>	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの下にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

**追加情報**

「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

## トランスコーダの検索

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。

**(注)**

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

**手順**

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。
- [トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「[ステップ 3](#)」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
  - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
  - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

**ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

「関連項目」(P.76-7) を参照してください。

## トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。

[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のトランスコーダをコピーするには、該当するトランスコーダを見つけます (「トランスコーダの検索」(P.76-3) を参照)。次に、コピーするトランスコーダの横にある [コピー (Copy)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 新しいトランスコーダを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 既存のトランスコーダを更新するには、該当するトランスコーダを見つけます (「トランスコーダの検索」(P.76-3) を参照)。次に、「ステップ 3」に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 76-1 を参照)。

- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。  
ウィンドウが更新され、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

## トランスコーダのリセット

トランスコーダをリセットする手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。
- ステップ 2** トランスコーダのリストから、リセットするトランスコーダを選択します。  
ウィンドウが更新され、選択したトランスコーダが表示されます。
- ステップ 3** [リセット (Reset)] をクリックします。  
[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 4** [リセット (Reset)] を再度クリックします。

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

## トランスコーダの同期化

トランスコーダを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

#### 手順

- ステップ 1** [メディアリソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。  
[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。  
検索条件に一致するトランスコーダがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期させるトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のトランスコーダをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。  
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

---

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

## トランスコーダの削除

トランスコーダを削除する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディア リソース グループを検索するには、[トランスコーダの設定 (Transcoder Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中のトランスコーダを削除しようとすると、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコーダを削除する必要があります。

#### 手順

---

- ステップ 1** 「[トランスコーダの検索](#)」(P.76-3) の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスコーダを選択します。  
ウィンドウが更新され、選択したトランスコーダが表示されます。
- ステップ 3** [削除 (Delete)] をクリックします。  
このトランスコーダを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。  
ウィンドウが更新され、削除したトランスコーダが、トランスコーダ リストに表示されなくなります。
- 

#### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.76-7) を参照してください。

## 関連項目

- 「トランスコードの設定値」( P.76-1 )
- 「トランスコードの検索」( P.76-3 )
- 「トランスコードの設定」( P.76-4 )
- 「トランスコードのリセット」( P.76-5 )
- 「トランスコードの同期化」( P.76-5 )
- 「トランスコードの削除」( P.76-6 )
- 「会議ブリッジの設定」( P.71-1 )
- 「メディア ターミネーション ポイントの設定」( P.72-1 )
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「トランスコード」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の管理ページにおけるトランスコードのタイプ」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」

